

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）

慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、
地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献

分担研究報告書

人材育成

研究分担者：伊藤孝史 島根大学・医学部附属病院・准教授
研究分担者：旭 浩一 岩手医科大学・医学部・教授
研究分担者：深川雅史 東海大学・医学部・教授
研究分担者：柏原直樹 川崎医科大学・医学部・教授

研究要旨

日本腎臓病協会認定の腎臓病療養指導士制度の充実、指導士数の増加、均てん化を図る。日本腎臓学会を中心に腎臓病療養指導士対象のセッションを開催した。さらには各都道府県で日本腎臓病協会の都道府県代表と連携をとり、腎臓病療養指導士の活動活性化を図った。また、腎臓病学を専攻した後期研修医を対象に「腎代替療法専攻医セミナー」を開催し、腎代替療法の選択、患者さんにおこる様々な問題への対処ができるよう、その基礎となる理論と考え方を習得した。

A．研究目的

慢性腎臓病診療においては医師、看護師、管理栄養士、薬剤師を始めとする多職種連携・チーム医療が必須である。本研究では、日本腎臓病協会認定の腎臓病療養指導士制度の確立、指導士数の増加、均てん化を図り、さらに腎臓病学を専攻した医師に対する腎代替療法に関するセミナーを開催し、慢性腎臓病診療における人材育成を目的とする。

B．研究方法

- 1) 日本腎臓病協会、日本腎臓学会と連携して腎臓病療養指導士対象のセミナー等を開催し、各地域間、各職種間での連携強化を支援する。
- 2) その他の療養指導士（糖尿病療養指導士、生活習慣病改善指導士、高血圧・循環器病予防療養指導士、腎臓リハビリテーション指導士など）と連携を取り、CKD 診療連携体制の強化を図る。
- 3) 腎臓病学を専攻した後期研修医を対象に「腎代替療法専攻医セミナー」を開催し、若手医師への教育を行う。

（倫理面への配慮）

腎臓病療養指導士の氏名、職場、職種などの個人情報取り扱いに関しては、倫理面への十分な配慮を行った。

C．研究結果

2019年度は、6月2日に第7回の講習会を開催した。2020年3月8日の第8回は新型コロナウイルス感染のため中止となった。講習会受講者数は2017年度1203名、2018年度617名、2019年度312名であった。この中から2018年4月に第1回の腎臓病療養指導士734名（看護師434名、管理栄養士154名、薬剤師146名）、2019年度には317名（看護師189名、保健師3名、管理栄養士57名、薬剤師68名）、2020年度には405名（看護師238名、保健師1名、管理栄養士77名、薬剤師89名）が認定された。

9年度には317名（看護師189名、保健師3名、管理栄養士57名、薬剤師68名）、2020年度には405名（看護師238名、保健師1名、管理栄養士77名、薬剤師89名）が認定された。

- 1) 日本腎臓病協会、日本腎臓学会と連携し、腎臓病療養指導士関連セッションを開催した。2019年6月22日の第62回日本腎臓学会学術総会では104名、2019年10月5日の第49回日本腎臓学会東部学術大会では75名、2019年10月19日の第49回日本腎臓学会西部学術大会では25名の参加者があり、熱い議論が繰り広げられた。
- 2) 全国各地で日本腎臓病協会の各都道府県代表と連携を取り、顔合わせ、勉強会などが実施されている。現在アンケート回収中である。中でも東京都では、厚生労働省門脇班において関連するその他の療養指導士代表者の連絡会議が2度開催された。
- 3) 2019年8月31日に、第一回腎代替療法専攻医セミナーを開催し、全国各地から38名の腎臓専攻医が集まり、腎代替療法、療法選択におけるSDM、血液透析、腎移植などに関して、講義、症例ディスカッションを通じて、理解を深めた。
- 4) 腎臓病療養指導士認定のための他施設での研修ができない方のために代替ビデオ研修（症例研修e-learning）を用意し、さらに腎臓病療養指導士の継続学習にも用いることができるようにした。

D．考察

腎臓病の療養指導とチーム医療に関する基本的知識と技能を有した腎臓病療養指導士は増加しているが、いまだ人数は不足している。さらに、今後

は各都道府県において診療連携の一員として活動できる体制の構築が必要である。そのために、令和元年度末に各都道府県代表に行ったアンケート調査を解析し、本研究班の分担研究である「診療連携体制構築」とも連携しながら進めていく必要がある。

E . 結論

腎臓病療養指導士や腎代替療法専攻医などの人材育成を通じて、慢性腎臓病診療における診療連携体制の構築に役立つように、各都道府県での更なる活動が必要である。

G . 研究発表

1. 論文発表

- 1) 伊藤孝史, 内田治仁, 柏原直樹 . JKA 活動 JKA の活動報告 .日本腎臓学会誌 61(8),1155-1159 , 2019.
- 2) 柏原直樹、伊藤孝史、内田治仁、他 . 腎臓・高血圧診療・研究のアップデート 日本腎臓病協会設立の目的と展望 腎臓病の克服を目指して一、循環器科、85 巻 1 号、2019、p4-10

2. 学会発表

- 1) 伊藤孝史、内田治仁、柏原直樹 :CKD 対策の新たな展開-NPO 法人日本腎臓病協会の役割-、学会主導企画 CKD 対策 今後の展開 第 62 回

日本腎臓学会学術総会 名古屋 2019

- 2) 柏原直樹 .我が国の CKD・腎不全診療 .第 30 回日本医学会総会 名古屋 2019
- 3) 柏原直樹 . 腎臓病の克服を目指して . 第 62 回日本腎臓学会学術総会 名古屋 2019
- 4) 柏原直樹 . 腎臓病の克服を目指して . 第 54 回日本小児腎臓病学会 大阪 2019
- 5) 柏原直樹 .腎臓病の克服を目指して .腎疾患対策検討会報告書と日本腎臓病協会への期待 . 日本心臓病学会学術集会 名古屋 2019
- 6) 内田治仁 .腎臓病療養指導士企画 「チーム医療・地域医療としての腎疾患対策と療養指導」CKD地域連携の実際 岡山県におけるCKD対策 第49回日本腎臓学会東部学術大会、東京 2019
- 7) 内田治仁 .CKD地域連携の実際 岡山県におけるCKD対策 第49回日本腎臓学会西部学術大会、高知 2019

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし